

平成26年度 布佐中学校 学校評議員による第三者評価の結果

<p>平成26年度の重点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 主体的によりよい生活・学習のあり方を求め、思考し、的確に判断しながら行動(表現)できる生徒を育てる。 2 互いの価値観を認め、仲間と学び合い支え合いながら、(自分ではない)誰かのために貢献できる生徒を育てる。 3 家庭・地域と連携し、三者一体となって生徒を育てるとともに、(地域が同一である)小学校との一貫教育を推進していく。
<p>今年度学校経営方針「子どもの自主性と共生的な態度を引き出す教育課程の創造」</p> <p>【5つの柱】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 言語活動の充実・授業での実践、特別活動での実践。 2 教職員の協働……目的・目標を全職員で共通理解し、同じベクトルに進む。 3 共生的な態度……互いの価値を認め、支え合い、助け合う態度。 4 小中一貫……一貫カリキュラムの整備による学力向上、中一ギャップの解消等。 5 人材育成……教職員の指導スキルとキャリアアップを図る。 <p>【3つの重点活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自ら課題を見つけ、解決にむけて思考し表現する力やコミュニケーション能力を培うカリキュラムの作成。 2 学校内外で他者に関わる活動、人や地域に貢献する活動を進める。 3 チーム布佐として協同・協働できる組織。
<p>めざす生徒像</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学力・生活力の向上をめざし、その方法を考えて自己実現に向けて全力で努力できる生徒。 ② 学校や自己の所属集団に誇りを持ち、仲間と協力して一生懸命に諸活動に尽くせる生徒。 ③ 地域を愛し、地域と協働しながら、よりよい社会の形成に向けて参画できる生徒。
<p>めざす学校像</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学校を核として、保護者・地域と連携しながら、みんなでつくる地域の学校。 ② 先生も生徒も通うことが楽しく、日々を充実した気持ちで過ごせる学校。 ③ 地域コミュニティの中核としての役割を果たせる学校。

1. 学校経営全体に関するもの。

○本校の教育計画は、生徒や保護者の願いを踏まえ、本年度の重点目標を推進するようになっていたか。

No.	評価
①	本年度の「重点目標の推進」について成功しているように思われる。「めざす生徒像」「めざす学校像」を目標として、校長を筆頭にしている姿勢が伺え、学校評議員、地域住民の立場として力強く感じている。
②	本校のキャリア教育等体験学習は内外で高く評価されており、この「強み」をもっと活かすべきである。
③	<研修の方向性>にあるB型学力=問題解決型学習の実践であり、そのまま情報編集能力の向上、コミュニケーション能力に結びつき、これらを向上させる授業の創造が急務である。
④	本校の教職員は、今年度学校経営方針「5つの柱」「3つの重点活動」について、生徒に対してしっかりと向き合い、また、教職員同士の学び合いについても真摯に取り組む姿勢が多々見受けられ満足している。
⑤	保護者との接触の機会が、それぞれの教職員として充分であったか。進学等進路問題、学力向上、校内での安全管理(含いじめ)、生徒間の問題等々保護者の不安は尽きないが、又、教職員と保護者とは認識にズレがあるように思われる。
⑥	具体的に5つの柱があるので、教育目標の達成に向けて具体策がとられていた。生徒及び保護者の願いを、どう具現化するのは、少し難しい作業になると思われるが、むしろ、学校側が提示して意見を聞いていくという方法でもよいと思われる。
⑦	教育目標を学校便りに載せたり、言葉で確かめあったり、教職員だけでなく生徒や家庭にまで共有目標としようと伝えている様子が分かる。目指す生徒像①②③を掲げ、目標達成のための「5つの柱」や「3つの重点活動」等を明文化していることは、教育計画を立てる時や活動を振り返る時等、様々な折に役立っている。目標も計画もよく考慮されている。あとは、生徒個々の向上心の濃度の問題かとも思われる。伸びしろは十分にある。
⑧	重点1については、1学期中は各教職員が試行錯誤で迷いが見られ自身の無さが感じられたが、2学期を終えるとある程度の自信が見えてきた。重点2について、授業について自信が見えてきたのに比べ、心の指導については最後まで悩んでいる様子も見られる。重点3について、保護者と教職員、地域と教職員の両者とも、互いに「積極的に関わっていききたい」と言っているが機会がなかなか作れないでいる。(学校の時間内に保護者、地域の者が合わせようとするのではなく、年に1、2回でも保護者や地域の者に合わせる時間をとれば関係が深まりお互いの中に入り込んでいける様に思われる。)

⑨	「生徒アンケート」と「保護者アンケート」を見ると、前年度に比べて多くの項目で評価が向上しているのが、重点目標の設定は適切であったと推測できる。一方で、アンケート項目の他にも、保護者の要望事項がある。取り巻く時代環境の変化の中で、若い父母がどのような関心・要望を持っているのか。それが分かれば、評議員会議の議論の視点もかわってくるのではないかと。
⑩	「みんなで創る地域の学校」に向けて、地域の中に存在する学校として積極的に地域に溶け込もうという姿勢が随所に見られる。学校目標である「自ら学び、共によりよく生きる生徒の育成」を達成させるためにA、B、C、Dの4本柱を樹立させ、30名の教職員が同じ方向を向いて指導に当たっていると感じている。卒業生、保護者として、現在の布佐中学校の姿はとて素晴らしい限りであり、誇らしい。
⑪	5つの柱、3つの重点については重点目標を推進するために必要なものばかりである。思考判断・表現力を高めるために「言語活動の充実」はとて大切と考える。各教科は、取り入れることで力をつけていくはず。子どもが成長するためには、「教職員の心のベクトル」をそろえることが大前提である。(教職員の協働)また、布佐地区では、小中一貫教育の推進校として我孫子市内で発信していく役目を担っている。また、「人財育成」を図ることで、達成されやすくなり、これら全て重点目標を推進できるようになっている。

2.学習指導に関するもの

○本校の学習活動は、生徒の実態や保護者の願いに合ったものになっており、生徒の学力(学習意欲、思考力)を高める取り組みとなっていたか。

①	生徒の学習意欲の向上については、地道に取り組ませるとともに、小中の継続性が大切になってくる。
②	評議員会議での説明や教職員による自己評価を読み、生徒の実態に合った学力向上のため、多くの教職員が努力している様子がうかがえる。ただし、保護者アンケートでは、分かりやすい授業の実践や家庭学習の取り組みについて「そう思わない」の割合が高い。また、保護者の意見には、「学力向上の支援」「補習」など、学校側の一層の努力を求める声に対して、今後どう具体的に答えるかが課題といえる。
③	学力向上は、一朝一夕ではなかなか成果は表れない難しい問題であり、各教職員とも一生懸命努力している。また、ちょっとした工夫がキッカケとなり、伸びる生徒もいるので複眼的思考を取り入れるのも考慮するとよい。
④	各教職員は、生徒の実態を踏まえ、授業の準備、内容や展開の工夫等よくやっている。宿題等、家庭学習のチェックや朝の学習の取り組み等、一人ひとりに細かい指導がなされている。部活動や委員会活動など、授業以外でも多くの時間と体力を要する中学生は、睡眠時間の確保も大事である。早寝早起きで勉強は100%集中する事で学力アップも図れる。
⑤	地域ルーム会議、学校評議員会議でも、「生徒が本を読まない」という読書に関する課題が話題になるが、学校、保護者、地域が協力し合って考えていかなければならない。今回、地域ルームで設置した机(テーブル)椅子、本棚、あの場所で生徒がどれだけ本を手にするか楽しみである。
⑥	生徒アンケートの中の「布佐中の良い所、直したい所」の欄は具体的でとてもよい。生徒自身が良い点、悪い点を認識していることが分かる。また、この中から重点改善項目を選ぶこともできる。同様に、保護者アンケートの声も興味深く読んだが、このアンケートの形式は今後とも続けて、分析・整理できれば、父母の声がいつそう理解できると思われる。
⑦	分かりやすい授業、学力向上に向けた教職員の努力や姿勢を生徒や保護者が十分に理解していない感もうかがえるのが残念で、教職員の視点を変えた工夫も望まれる。学力向上のカギとなるのが家庭学習の充実であり、復習しようなどという「やる気・意欲」という気持ちは、人から教わるものでなく、自身の心の奥底から湧き出てくるものである。
⑧	学力向上については、教職員は授業改善に向けた方法や内容の工夫をしているが95%と高い。しかし、生徒は分かりやすいと回答している割合が3/4、このギャップを埋めることで、子どもたちの意欲は上がっていくのではないかと考える。分かりやすい→分かる→楽しい→意欲が出てくる→自ら学習するようになる、分かりやすい授業は子どもたちの意欲を上げるためにも近道と考える。

3.生徒指導に関するもの

○家庭や地域と連携を図りながら、生徒の健全育成(他を思いやる心・貢献)の取り組みがなされているか。

①	自分の知る限りでは昨年度より一歩前進していると思われる。家庭との連携については、小中一貫教育の中で「家庭学習の手引き」作成に着手していることは高く評価できる。生徒の健全育成については、地域との連携・協力がよい形で進展しており、「融合した関係」へと発展させることを望んでいる。教育現場では、アンケート結果にみられるようにいじめのない学校作りや分かりやすい授業、家庭学習の不足、何よりも中学生世代特有の様々な悩みなど、教職員の苦労は多い。「みんなで創る地域の学校」に向け、本年度をステップの年と位置付けて来年度のジャンプに期待する。
②	以前から、部活動等があるので不登校などにもならずにいる生徒もおり、授業以外でも苦労している教職員の姿は、地味で目立たないが大変ありがたいことである。地域ボランティアについても同様である。
③	家庭との連携は、主に担任から必要に応じてとられている。小規模校であり、地域の特色から見ても、目の届きやすい環境である。地域の様々な行事や活動に、教職員も生徒たちも積極的に参加、行動し、「布佐で育つ」地元の生徒を輩出している。教職員の努力に心打たれている地域の大人もいるように思う。
④	学校と保護者、地域との連携はまだまだ薄い。吹奏楽、郷土芸能は地域参加しているが、一般生徒は神社祭礼などにもっと参加して欲しい。文化祭等では、小、中、高校生の作品展示等もっと活発にやってもらいたい。地域文化活動等のポスターを学校内にも掲示できれば教職員、生徒とも町の動きが分かると思うがどうだろうか。
⑤	地域アンケートによると「挨拶」以外はすべて70点以上なので良い取り組みがされていると思われる。「挨拶」は、大人の方からすれば、良くなる。もう少し、地域の声が欲しい。
⑥	布佐中生の生活、態度は、他校の生徒と比較しても乱れている様子は確認できず、中学生らしい中学生が多く良いと思います。昨今の中高生を取り巻く様々な環境というのは、決して充実、そして安心で安全であるものではないように感じている。中高生本人に指導することは必須であるが、思春期の始まった生徒たちに対して、私たち全ての大人たちが、それぞれの持ち味と創意工夫を凝らしながらコミュニケーションをとることが、結果として生徒たちを守る一助となるのではないかと感じている。
⑦	思いやりの心の育成については、教職員、生徒は、ほぼ良好と捉えている。思いやりは、目に見えないので評価することは難しいが、まず、子どもたち自身が良好と捉えているのは素晴らしい。吹奏楽部の子どもたちが演奏することで、地域を盛り上げたり、活性化につながったりしているので、これも継続して欲しい。地域の為の活動は「思いやり・貢献」の姿の実現だと感じる。

4.その他、小中一貫教育推進に関する事等、学校教育全般について。

①	生徒たちはどのようなところで学習につまずいているのか、学力アップにはどのような対策が必要なのか。テスト結果や日常の授業などを通して、正確な情報を把握しているのは学校だけである。まずは、教職員と保護者が共通認識をもつ努力をし、さらに学校支援をめざして活動する地域ボランティアに対しても、必要な部分の積極的な情報開示と学校のリーダーシップをお願いしたい。
②	小中一貫教育推進について、未だに理解が不足している教職員もあり、モデル地区として現状のまま推移して大丈夫なのかやや不安がある。又、保護者アンケートの中にも同様なものがある。モデル地区としてスタートするということは大変なことであり、本来なら軌道に乗るまで専任が常駐すべき案件だと思われる。市教委から配備されたICT機器も更に有効に活用すべきと思われる。
③	分離型という小中一貫教育は、不便さと複雑さを乗り越え、独自のスタイルを生み出し、実践していくほかはないかと思う。まとめやすい学区である事が幸い。将来的にプラスの副産物が児童生徒たちに、保護者たちに、地域そのものに、学校や教職員にたくさん生じるよう期待し、応援をする。
④	小中一貫教育推進に関しては、まだまだ小中の教職員の連携が不足しているように思う。中学校職員から小学校へ歩み寄ることが大切である。

⑤	アンケート集計について、各項目の達成率を折れ線グラフ等で時系列的表示ができれば、改善活動の動向と教職員の努力が一層明瞭になる。また、グローバル化対応の記述・評価項目も設定し、その検討状況や進展状況も知りたい。総合的な学習の時間の中の「ふさタイム」について、講師同士の繋がりを増やしてはどうかと思う。新人講師は、ベテラン講師の意見・ノウハウを聞くことができれば参考になる。
⑥	平成28年度の公開研究会に向けて、平成27年度は今日まで話し合ってきた事柄を、より具体化させて試験的に運用し、改善点を見出し、「布佐中学校区」としての方向性、ビジョンを次第に確立していければと思う。
⑦	家庭学習の充実については、小中高と連携し、布佐中区の重点として取り組んで欲しい。